

市政のここが聴きたい！

一般質問

10議員が登壇 傍聴者延べ138名

一般質問とは、議員が市政全般にわたり市長をはじめ執行機関側に、事業の執行状況や将来の方針などを質問し、説明を求めるものです。

※一般質問の様子もホームページで録画配信中ですのでご覧ください。

問 今年4月から新たな森林管理制度がスタートした。これは、所有者の管理義務を明確にし、管理できない場合には市町村が管理を行うか、林業者や森林組合に再委託ができるというものだが、市内の森林保全の現状と課題は。

答 現在、市内の林業経営体はゼロであり、自分で手入れをしている森林所有者も少ないため、人工林の整備が課題である。

問 整備の財源として10月に森林環境譲与税が交付されたが、その用途は。

答 来年度に所有者や所在地を調査するための森林台帳を整備し、市内の森林をブロック分けして最も整備状況の適した箇所の所有者からの意向調査等を予定している。令和15年度以降は毎年約1千万円が配分されるため、長期にわたる有効な

活用方法を検討していく。

問 林業を成長産業化するには木材が売れなくてはならないが、日高市の木材の市場価値は。

答 まずは森林保全から始め、木材市場が活性化された後に商品化されるものと考えている。

問 近隣市町との連携は。

答 本市は、飯能市、毛呂山町、越生町とともに西川広域森林組合に属しているため、林業ノウハウを持つ自治体とも情報交換ができています。4市町で担い手の育成、西川ブランドを使った事業展開などについて連携していきたい。

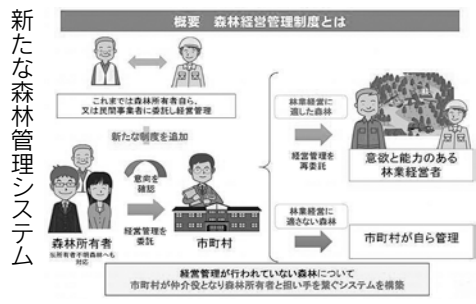
問 都市部との連携は。

答 森林を持たない自治体にも人口割で森林環境譲与税が入ることから、都市部の財源がこの西部地域の活性化に使われるような工夫をしていきたい。

問 異常気象による想定外の降雨では、ふるさとの森の散策道から近隣住宅の敷地内に水が流れ込むが、整備方法にも原因があるのではないかと考える。異常気象は今後も続くと思われるが対策は。

答 散策道に敷いた砂利の流出が影響しているようであり、維持管理の範囲内で整備方法を考慮する。

ふるさとの森の整備について



森林保全について

田中 まどか